2021年2月6日

「令和2年度青果物輸出特別支援事業」の実績報告
（フィリピン国りんご輸出輸送品質検査報告）

株式会社　秀果園
代表取締役社長　渡邉　隆信

長野県よりフィリピンに輸出したりんごにつき、以下報告します。

検査目的

　船便を利用することにより輸送コストの低減を図り、手頃な価格帯での販売を実現することにより購入機会を増やし日本産果実の品質の良さを改めて体感してもらうため、品質を保持できる輸送技術を輸出業者と取り組む。　特に本年度は世界的な新型コロナ禍の中、3年間継続してきた長野県産大玉りんごを本年度も継続して行えるかが課題。

＜渡航プロモーション無しでの販売トライアル＞
当初、新型コロナの為現地での販売プロモーション並びに宅配が出来ない環境下で有ったが現地の固定的安定顧客からの継続輸出の要請が有り、渡航プロモーション無しでのコールドチェーンの確保の上、販売を行えるかの実証を試験的にも行う事にした。宅配等の配送実務と代金回収が課題と思われた。

対象果実　：　フィリピン　りんご
輸出先　Philippines, Manila
輸出時期 2020.11.18
輸出品　りんご
荷造り日：長野県　11月13日
出港日　：横浜港　11月18日
到着日　：マニラ港11月26日
検査箱数：①コンテナ用輸送箱　105箱
検査結果：長野市須坂梱包場にて品質検査及びケースマークシール添付を行う。

結果概要：
販売促進における
輸出した品種、箱数
シナノスイート84箱、シナノゴールド12箱、名月7箱、しなのほっぺ2箱、計105箱

Arctic Cold Ref.	保冷営業倉庫 日本からの SNS による入出庫が確実に行えるかの実証試験を行った	結果的に全く問題なく今後は販売も見据えたプロモーションについて協力関係を構築していきたい。
TerLay Investment	マニラりんごの主要買入先として、本年は契約前払い条件で行った	例年より大幅な販売数量の減少が有り、現地プロモーションが最も必要な販売先。
Ben Line Agencies	現地企業へのクリスマス商戦を主に行う。 今後の現地のパートナーとしての協業が期待できる。	新市場の開拓の為、低価格の商品の提案や、新商品による販売増加が必要。

実施場所　マニラ
ターゲット　富裕層へ注文販売
コロナ禍における現地プロモーション活動無しでの一回目の販売として例年の 25%程度の販売量となった。
だが今後について現地でのりんご、梨に加えて、ぶどうやその他の果菜類や加工品を挑戦したい。現地輸入検疫に対する日本政府による現地輸入条件の緩和、間口の拡大（りんご、梨以外、加工品も含む）を推進して頂きたい。
マニラモデルのりんご輸出受注販売をその他国へ展開したい。
コロナ後の対策について進めていきたい。

以上、